

野菜花き 6月下旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 6月20日、24日、25日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地）は着果中であった。アブラムシ類は、防除により6月上旬に一旦減少したが、再び増えていた。アブラムシ類により媒介されたと考えられる、CMV感染株が確認された（図1。簡易診断キットにより判定）。また、アザミウマ類の寄生花もみられた。

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。オンシツコナジラミの発生は、6月上旬調査時より多くなった。病害の発生はみられなかった。



図1 CMVに感染した
トマト果実（小諸市）

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は収穫が終了したため、調査ほ場を移動した（施設栽培）。収穫が始まっており、アザミウマ類の寄生がみられたが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は着果中であった。アザミウマ類の寄生株率が平年と比べ高かった。アブラムシ類の寄生株率は6月上旬と同程度で少発生であった。また、オンシツコナジラミの寄生がわずかにみられ、ハダニ類の寄生がみられたが少発生であった。病害の発生はみられなかった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であった。アザミウマ類、アブラムシ類の寄生がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では株腐病の発生がわずかにみられた。虫害ではチョウ目害虫の被害がわずかにみられた。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。コナガ、ウワバ類の寄生がみられ、チョウ目害虫による被害株みられたが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は、結球期であった。病害ではべと病の発生がわずかにみられた。虫害ではチョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は平年並であった。

長野市の巡回ほ場は結球始期であった。コナガの寄生はわずかであったが、ウワバ類の寄生がやや多く、チョウ目害虫の被害株率は、平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、生育期（10葉期）であった。チョウ目害虫の被害株率が平年と比べ高かった。病害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、出蕾期であった。べと病の発生がわずかにみられた。また、コナガの寄生がわずかにみられ、チョウ目害虫の被害株がみられたが、少発生であった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、定植前であった。

小諸市の巡回ほ場は、収穫期であった。チョウ目害虫の被害がみられたが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害ではしり腐病の発生がわずかにみられた（調査対象外）。虫害ではチョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。チョウ目害虫の被害がみられたが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は、収穫期であった。菌核病、すそ枯病の発生がみられ、少発生であったが、平年と比べると発病株率はやや高かった。害虫の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、結球始期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられ、少発生であったが、平年と比べると発病株率はやや高かった。病虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。すそ枯病の発生がわずかにみられた。害虫の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、結球期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられ、少発生であったが、平年と比べると発病株率はやや高かった。害虫の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎開始期であった。アザミウマ類の寄生株率がやや高かった。病害の発生はみられなかった。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎中であった。アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生頭数は少なく、平年並の発生であった。病害の発生はみられなかった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎中であった。茎枯病の発生がわずかにみられた。また、アザミウマ類の寄生がみられ、寄生株率は平年と比べやや高かった。

9 たまねぎ

長野市の巡回ほ場は、収穫済みであった。

10 ながいも

長野市のながいもは、萌芽前であった。

11 ばれいしょ

小諸市の巡回ほ場は、生育中であった。アブラムシ類の寄生がみられ、昨年、一昨年に比べて、やや多かった。また、オオニジュウヤホシテントウの寄生がみられた（図2。調査対象外）。病害の発生はみられなかった。



図2 ばれいしょのオオニジュウヤホシテントウ成虫（左）と幼虫及びその食害痕（右）（小諸市）

12 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、生育期（草丈 60 cm程度）であった。病害虫の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 6月18日、19日、20日、24日、25日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。花にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、アザミウマ類による白ぶくれ症果もわずかにみられた。病害では、葉および果実に灰色かび病（少発生）の発生がみられた。

伊那市および安曇野市の巡回ほ場（露地栽培）は、着果始めであった。病害虫の発生はみられなかった。

2 きゅうり

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。花にアザミウマ類（多発生）の寄生がみられ、寄生株率は依然として高く推移していたが、葉への寄生は減少傾向であった。

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。花および葉にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたが、寄生株率は前回より少なかった。

3 すいか

飯島町の巡回ほ場は、着果中（トンネル被覆）であった。病害虫の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場は、着果中であった。葉にアブラムシ類（中発生）の寄生がみられたが、寄生株率、密度ともに前回より落ち着いていた。

4 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、生育期であった（前回から場所移動、9～10葉期）。病害虫の発生はみられなかった。

茅野市の巡回ほ場は、生育期（9～10 葉期）であった。葉にウワバ類の寄生がみられたほか、チョウ目害虫による食害（いずれも少発生）もみられた。

5 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場は、収穫期であった。葉にウワバ類の寄生がみられたほか、チョウ目害虫による食害（いずれも少発生）もみられた。

6 はくさい

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。べと病および軟腐病（いずれも少発生）の発生がみられた（図3）。

木祖村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害虫の発生はみられなかった。



図3 はくさい軟腐病（朝日村）

7 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、生育期（前回から場所移動、4～5 葉期）であった。外葉にすそ枯病（中発生）の発生がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、生育期（前回から場所移動、3～4 葉期）であった。病害虫の発生はみられなかった。

8 セルリー

松本市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫が終了していた。

原村の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫前であった。病害虫の発生はみられなかった。

9 アスパラガス

豊丘村（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎中であつた。払落しによりアザミウマ類（少発生）およびアブラムシ類（中発生）の寄生がみられた。

飯島町（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎中であつた。払落しによりアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、茎枯病（少発生）の発生もわずかにみられた。

池田町（露地栽培）の巡回ほ場は、立茎中であつた。払落しによりアザミウマ類およびアブラムシ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

10 たまねぎ

安曇野市の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

11 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 5.0 葉であつた。虫害では、アザミウマ類およびネギハモグリバエ（いずれも中発生）の寄生がみられたほか、ネギコガ（少発生）の寄生もみられた（図4）。病害では、黒斑病およびさび病（いずれも少発生）の発生がみられた。

山形村の巡回ほ場は、本葉 4.5～5.0 葉であつた。アザミウマ類およびネギハモグリバエ（いずれも中発生）の寄生がみられた。



図4 ねぎのネギコガ（南箕輪村）

12 きく

富士見町の巡回ほ場は、着蕾期（草丈約 85cm）であつた。病害虫の発生はみられなかった。